

学発番号: 学18-043★
事業名: 輸血講演会「緊急時、大量出血時の輸血療法」(日臨技推進事業研修会)
日時: 平成31年1月26日(土)14:00～16:30
場所: メルパルク京都
主 題1: 救急医療と輸血 ～臨床検査技師にできること、すべきこと～
講 師1: 松浦 秀哲 技師(藤田医科大学病院)
主 題2: 術中大量出血と凝固因子補充療法
講 師2: 小川 覚 技師(京都府立医科大学附属病院)
参加数: 総数:58名(京臨技会員:30名)
報告者: 原 健介(亀岡市立病院 臨床検査科)

以下、講演内容など

講演1では、救急医療の基礎知識としてJCSとGCSの違い、高エネルギー事故による外傷の捉え方など、救急の現場で使用される用語説明がありました。共通言語を臨床検査技師も知り、情報を聞き、読み取ることで、目の検査データだけでは分からない臨床を理解し、出血量、輸血量の推測、次に行うべき検査など、前もって準備することにつながる事が分かりました。それ以外にも緊急輸血のリスク、およびその回避方法の説明もあり、知識向上につながったと考えます。

講演2では、術中大量出血にする止血治療について、輸血・細胞治療学会から提示されたばかりの新しいガイドラインを、エビデンスを提示し分かり易く説明して頂きました。凝固因子の補充療法は、FFP以外の製剤について、フィブリノゲン濃縮製剤、PCの適応や、rFVIIa、プロトロンビン複合体製剤(PCC)の適用外使用など、新しい凝固補充療法をお話し頂き、また、血栓性リスクの説明、ワルファリン使用患者の緊急大量輸血対応、モニター検査の紹介など貴重な講演をして頂きました。